

CHAPTER 2

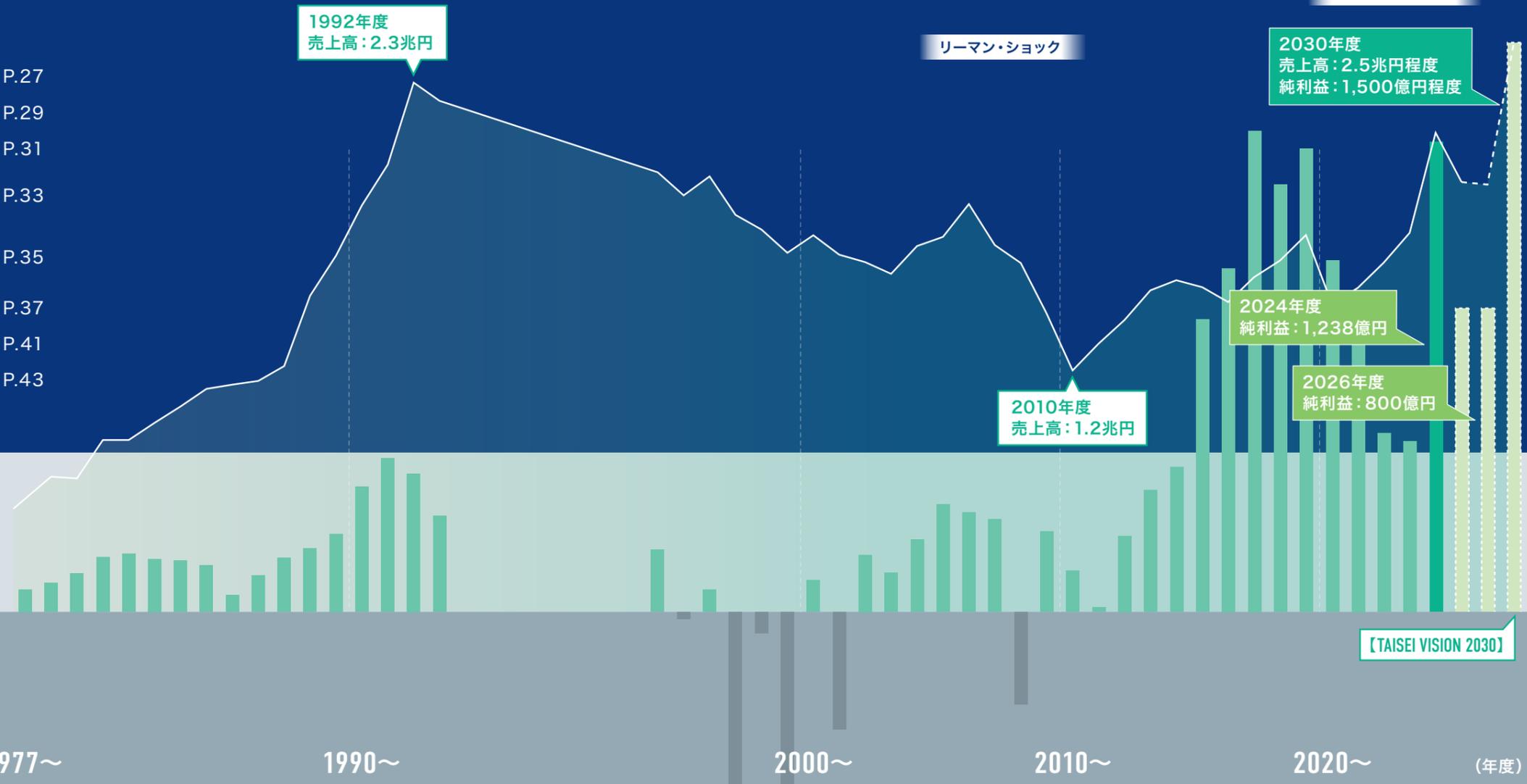
未来を創る「価値創造」①

これからの、 「地図に残る仕事。®」

「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」。
この二つを強みに、私たち大成建設グループは、
お客様と社会の課題解決に取り組んでいます。
これからも、全員がワクワクしながら働き、
レジリエントな社会づくりに貢献し、皆様とともに未来を創ります。

CONTENTS

- ・ 「地図に残る仕事。®」“これまで”と“これから” P.27
- ・ 価値創造プロセス P.29
- ・ 競争力の源泉 P.31
- ・ バリューチェーンにおける「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」 P.33
- ・ サステナビリティ経営とマテリアリティ CSuOメッセージ P.35
- ・ マテリアリティ P.37
- ・ 特集「ものづくりへの矜持」 P.41
- ・ ステークホルダーとの対話 P.43



【経営成績の推移】

- グループ純利益
- 売上高

イントロダクション

社長メッセージ

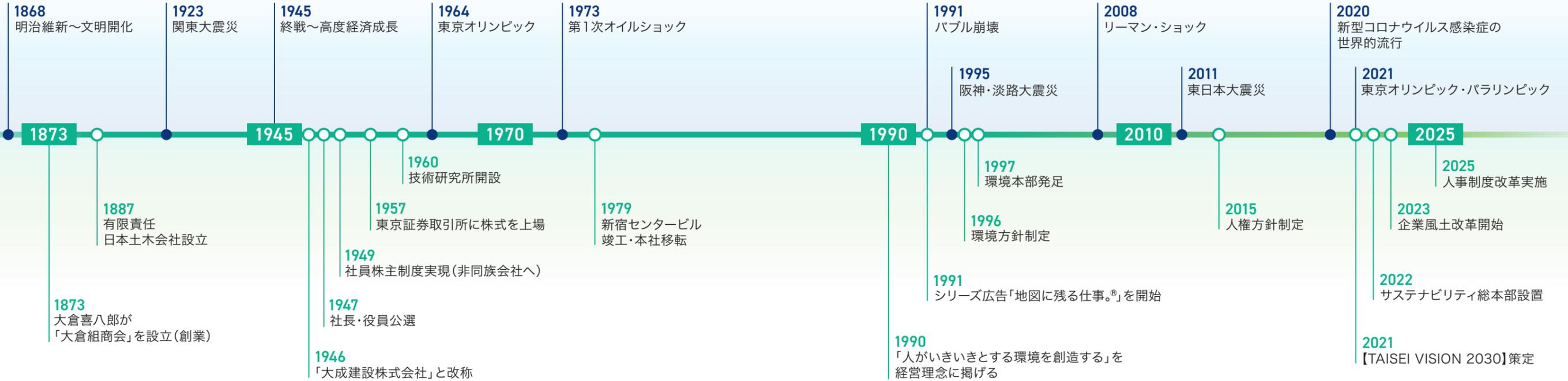
自由闊達

価値創造

伝統進化

「地図に残る仕事。®」 “これまで” と “これから”

大成建設グループは、創業者・大倉喜八郎の「前例のないことに挑むパイオニア精神」を受け継ぎ、「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」により、人々の暮らしを支え、社会の発展に貢献してきました。今後もお客様と社会の課題解決に貢献し、ともに成長するために、「これからの、「地図に残る仕事。®」」に挑戦し続けます。



日本の近代化を支える

パイオニア精神あふれる大倉喜八郎は「大倉組商会」や国内初の法人建設企業「有限責任日本土木会社」を設立。急速に発展する日本を建設事業で支えました。



1883 鹿鳴館

戦後復興と高度経済成長への貢献

戦後の混乱期を社長公選、社員株主制度導入などで乗り切り、株式公開により工事の大規模化・機械化に対応。社会インフラ整備で高度経済成長に貢献しました。



1964 富士山頂レーダー基地

技術革新と総合力で存在感を発揮

超高層時代に突入し、高難度の国家的プロジェクトも増加する中、技術革新と総合力で対応し、スーパーゼネコンとして存在感を発揮しました。



1985 南北備讃瀬戸大橋(下部工、北工区)

地球環境と共存し大型プロジェクトに挑む

環境問題に注目が集まる中、業界に先駆けて取り組みを進めながら、数々の大型インフラ工事に挑み、世界中で「地図に残る仕事。®」を完遂しました。



1997 東京湾アクアライン「風の塔」

サステナブルな社会の実現に貢献

持続可能な成長と企業価値向上を目指すサステナビリティ経営に業界の先陣を切って取り組み、事業を通じてお客様と社会の課題解決に貢献しています。



2019 国立競技場

これからの、「地図に残る仕事。®」

サステナビリティ課題を解決する力を磨き、志をともにするパートナーと力を合わせ、「人も自然もいきいきとする未来」を創っていきます。



「2030年の技術、その先の未来。」

大成建設グループの価値創造プロセス

大成建設グループは、「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」で人も自然もいきいきとする未来を共創します。

外部環境

- IX
- SX
- DX

- 少子高齢化による担い手減少
- デジタル化の進展
- 建設業界再編圧力の高まり
- 地政学リスクの顕在化・物価上昇
- 持続可能な社会への転換 など

人も自然も いきいきとする未来

グループ理念

グループ長期環境目標
TAISEI Green Target 2050



イントロダクション

社長メッセージ

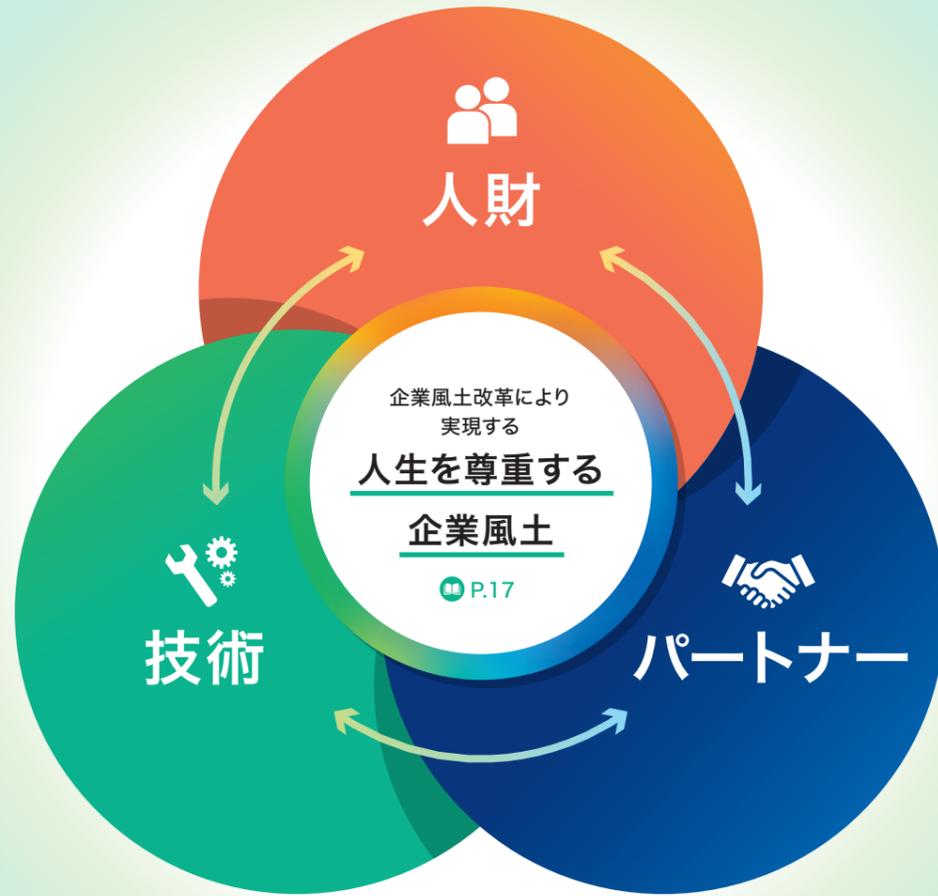
自由開達

価値創造

伝統進化

“これからの、「地図に残る仕事。®」”のために、 磨き続ける競争力の源泉

大成建設グループが磨き続ける競争力の源泉



大成建設グループの競争優位性
「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」

「人財」「技術」「パートナー」、それぞれが重要な役割を果たし、相互に補完し合うことで、「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」による価値創造を実現してきました。

この3つの競争力の源泉は、大成建設グループが目指すお客様と社会の課題解決のために欠かせない存在です。企業風土改革により、社員一人ひとりの力を最大限に引き出し、一步先の社会の要求に応える技術を磨き、志とともにするパートナーとの共創をさらに深めることで、社会とともに持続可能な成長を実現していきます。

挑戦の起点となる多様な 人財

創業者・大倉喜八郎の「パイオニア精神」
これを受け継ぎ、「非同族」の自由闊達な社風の中で切磋琢磨してきた多様な人財。企業風土改革をはじめとする諸改革を進め、人財の持てる力を最大限に引き出し、これからも「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」を続けていきます。

● P.73 人財(人的資本)



次世代を担うグループ若手社員を起用したCM

一步先の社会の要求に応える 技術

歴史が証明する「技術力」
常に、一步先の社会の要求に応える技術を提供することで数々の難しいプロジェクトを成し遂げてきました。これからも、時代の先を見つめて変化を先取りし、気候変動、担い手不足、地方創生などの、お客様と社会の課題解決に貢献する技術を磨いていきます。

● P.81 技術・DX(知的資本)



大成建設グループ次世代技術研究所(完成イメージ)

未来をともに創る パートナー

建設の仕事に欠かせない「連携する力」
技術やノウハウ・新事業をともに世に送り出してくださるビジネスパートナーの皆様とともに社会の課題解決に取り組んできました。「これから」を見据えて、サプライチェーンはもとより、志とともにする多様な業種のパートナーと新しい価値を共創していきます。

● P.87 パートナー(社会関係資本)



Park Line推進協議会によるウォーカーブルなまちづくり(【横浜】日本大通り)

- 【多様な業種のパートナーとの共創】
公共空間マネジメントを通じた地域価値向上
(一社)Park Line推進協議会
(会員企業(2025年9月現在))
- 大成建設(代表法人)
 - パシフィックコンサルタンツ(代表法人)
 - (株)JTB
 - (株)みずほ銀行
 - 大和リース(株)
 - (株)NTTアーバンソリューションズ総合研究所
 - NTT東日本(株)
 - (株)ドコモ・バイクシェア
 - 日本郵政不動産(株)
 - (株)博報堂

バリューチェーンにおける「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」

バリューチェーンのあらゆる局面において、「想像を超える提案」と「たゆまぬ挑戦」によりお客様と社会の課題解決に貢献する価値を提供します。



イントロダクション

社長メッセージ

自由開達

価値創造

伝統進化

サステナビリティ経営とマテリアリティ

CSuO (最高サステナビリティ責任者)メッセージ

「企業風土改革」と「たゆまぬ挑戦」により
サステナビリティ課題解決力を高め
人も自然もいきいきとする未来を築きます

CSuO 副社長執行役員
サステナビリティ総本部長
谷山 二郎 Jiro TANIYAMA

サステナビリティ課題への対応は「不可逆」

昨今、世界情勢が揺れ動き、社会や経済の不確実性が増しています。一部の国では環境保全などの取り組みに停滞も見られます。しかし、環境・人権をはじめとするサステナビリティ課題が人々の暮らしや経済活動に及ぼす影響の大きさを考えると、課題への対応は、後戻りすることのない、不可逆な流れだと言えます。今後、企業には、課題解決に真摯に取り組む姿勢が、これまで以上に問われることになるでしょう。

当社グループは、事業を通じてお客様と社会のサステナビリティ課題を解決し、「人々が豊かで文化的に暮らせるレジリエントな社会づくりに貢献する」ことを目指しています。脱炭素、資源循環、自然共生、人権、地域連携などをはじめとするサステナビリティ課題は複雑に連関しており、解決への取り組みが相乗効果を生む場合もあります。当社グループでは、これらの課題を個別に扱うのではなく、統合的かつ戦略的に捉えて、シナジーの最大化とトレードオフの最小化に努めています。今後も、たゆまぬ挑戦により、サステナビリティ課題を統合的に解決する力を高めていきます。

マテリアリティへの着実な対応で 企業価値向上を図る

2024年度に、ダブルマテリアリティの観点からリスクと機会を検討し、マテリアリティを見直しました。改定した5つのマテリアリティは、「より良い未来を築く」という共通の目的で結びついており、着実な対応を積み重ね

ることが、社会から信頼を得て、当社グループの成長を推し進めることにつながります。環境関連技術の深化やZEB市場での優位性など、既に効果が出ており、競争力向上にも寄与しています。今後も、マテリアリティへの対応を通じて、事業機会の拡大、人的資本の強化、リスクの低減、資本市場における成長期待の向上などを図り、企業価値のさらなる向上を目指します。

また、国際的な情報開示制度の整備に伴い、日本でもサステナビリティ情報の開示義務化が進んでいます。当社グループでは、開示基準とのギャップ分析やCO₂排出量の集計方法の高度化を進めており、透明性と説得力のある情報開示を通じて信頼を高め、資本市場での評価向上につなげていきます。

“人生を尊重する企業風土”を実現し サステナビリティ課題解決力を高める

現在、当社は、全社を挙げて企業風土改革に取り組んでいます。私も、その一員として、社員が誇りを持ってワクワクしながら働き、さまざまなことに挑戦できる環境をつくるために注力しています。そして、それを、事業を通じてお客様と社会のサステナビリティ課題を解決する力を高めることにつなげ、持続的な企業価値向上と安定的な成長を実現したいと考えています。

そのためには、ステークホルダーの皆様との建設的な対話を深めることも欠かせません。今後とも、当社グループのサステナビリティに関する考え方と取り組みにご理解を賜り、率直なご意見とご助言をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。ともに、人も自然もいきいきとする未来を築いてまいりましょう。

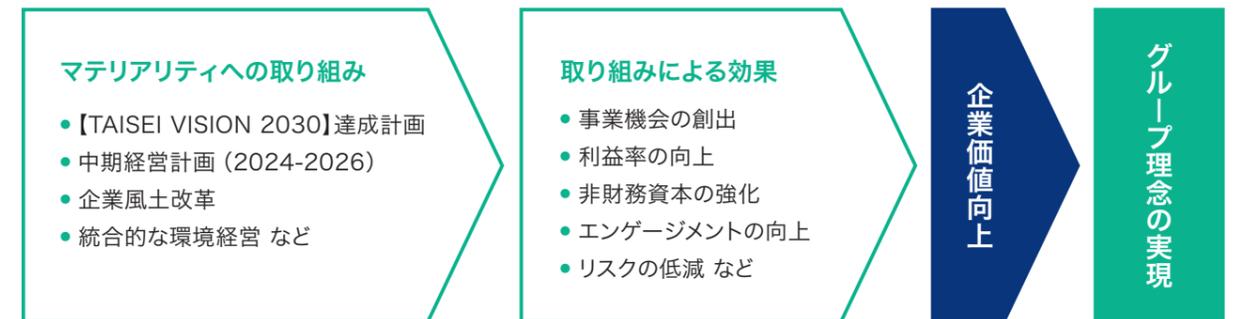
サステナビリティ基本方針

グループ理念及び大成スピリットに基づき、「サステナビリティ基本方針」を定めています。私たちは、この方針のもとで事業を通じて社会に貢献していきます。

建設業を中核とした事業を通じてサステナビリティ課題の解決を図るとして
サステナビリティ・トランスフォーメーション (SX) を実現し、
人々が豊かで文化的に暮らせるレジリエントな社会づくりに貢献する

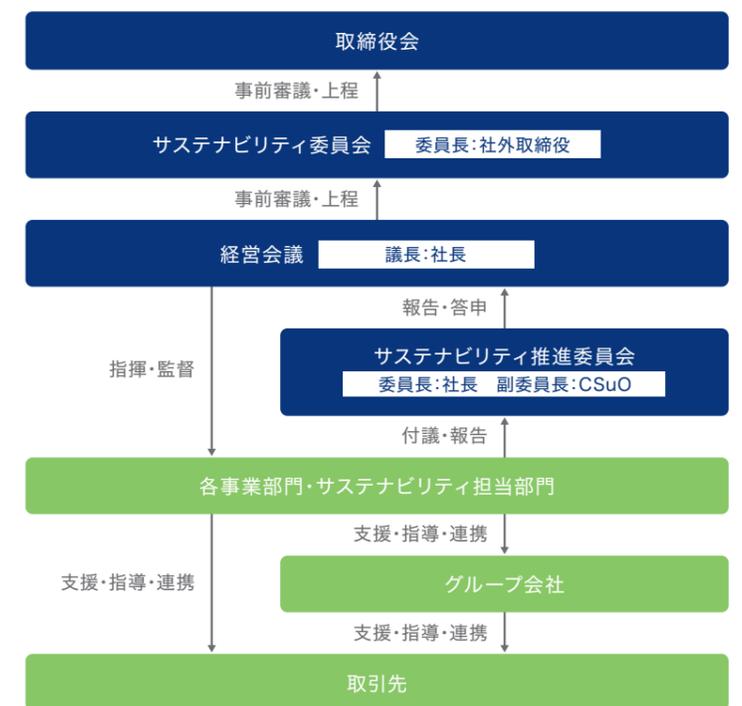
マテリアリティと企業価値向上の関係性

「サステナビリティ基本方針」に基づき、マテリアリティを特定しています。その解決に向けた、中長期を見据えた取り組みにより、財務・非財務資本の強化やリスクの低減などを図り、企業価値向上とグループ理念の実現につなげていきます。



サステナビリティ経営推進体制

サステナビリティ推進に関して取締役会が十分に監督し、グループ全体のサステナビリティ経営の強化を図るために、取締役会委員会として「サステナビリティ委員会」を設けています。同委員会は、社外取締役を委員長とし、マテリアリティに関する取り組みのモニタリングなどサステナビリティ関連の重要事項を審議の上、取締役会に報告しています。また、執行サイドにおいては、経営会議のもとに、サステナビリティ推進委員会をはじめとする各業務委員会を設置し、サステナビリティ関連の個別課題についてタイムリーかつ十分な議論に努めています。業務執行については、サステナビリティ総本部長を最高サステナビリティ責任者 (CSuO) に任命し、サステナビリティ総本部長が各部門と連携して、事業を通じてサステナビリティ課題解決を図るための活動を推進しています。



マテリアリティ

2024年5月に最新のサステナビリティ課題を踏まえてマテリアリティを見直し、下記の5つとしました。目指す姿の実現に向けて、マテリアリティに対する重点施策やKPIを【TAISEI VISION 2030】達成計画などに反映して、取り組みを進めています。

～ 事業を通じて解決するマテリアリティ ～



～ 価値創造の基盤となるマテリアリティ ～



マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティの特定は、以下のプロセスで行いました。



社外専門家を加えたワーキンググループにより、SDGsやSASB業種別マテリアリティマップなどから482項目のサステナビリティ課題を抽出。類似項目を123項目に集約。

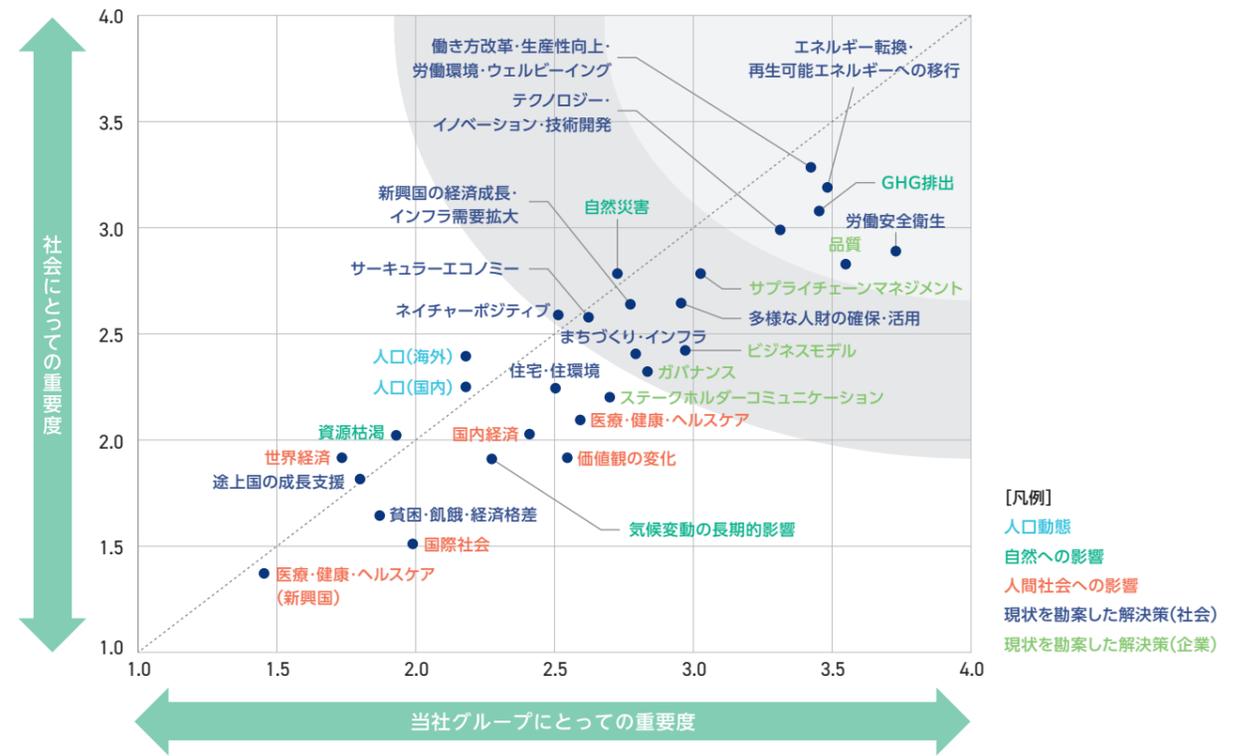
ワーキンググループにより、当社グループにとっての重要度、及び社会にとっての重要度という2つの側面から定量的に評価。当社グループに重要となりうる15項目に絞り込み。

経営者インタビュー、グループ役員へのアンケート、基幹取引先へのアンケート、企業風土改革ワーキンググループの意見収集などの結果を踏まえ、15項目を包括するマテリアリティとして5項目を特定。

経営会議、サステナビリティ委員会での事前審議を経て、取締役会で審議し決定。

検討課題の抽出

マテリアリティ候補リストの123項目について、社外専門家を加えたワーキンググループにより、「当社グループにとってのリスク・機会」及び「社会にとってのリスク・機会」の重要度を定量的に評価、検討しました。その上で、当社グループにとって重要となりうる検討課題15項目を抽出しました。



マテリアリティの特定

抽出した15項目の検討課題に対する経営者インタビューとグループ役員などへのアンケート結果を踏まえ、全課題を包含するマテリアリティとすることを目指しました。特定にあたっては、ステークホルダーの皆様にも当社グループが認識している課題と活動への理解を深めていただくために、マテリアリティの数は5つとし、分かりやすい表現を心がけました。



■ マテリアリティとKPI

特定した5つのマテリアリティについては、【TAISEI VISION 2030】達成計画及び中期経営計画（2024-2026）の施策に織り込んだ上でKPIを定め、事業戦略と一体化して取り組んでいます。

KPIの進捗状況については、定期的に取り締役に報告して監督を受けており、未達が見込まれる場合には、原因を分析し、対策を講じてその達成に努めています。

2024年度実績の振り返り

「サプライヤーのサステナビリティ活動状況確認率」については、2024年度より新システムを導入したために確認率が低下していますが、今後運用の改善などを図り、サステナビリティ活動の取引先への浸透と確認率の向上に努めていきます。また、「4週8閉所実施率」については、適正な工期の確保を前提とした営業活動により、建設業界全体の重要な課題である長時間労働の是正と休日の確保に向けて、目標達成に努めていきます。

マテリアリティ	目指す姿	貢献する主なSDGs	主要KPI	2024年度実績	2026年度目標	2030年度目標
<p>顧客・社会に対する課題</p> <p>豊かな暮らしを実現する 新たな価値の共創</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社内外連携とオープンイノベーションにより、未来に求められる社会的価値をまちづくりやインフラ整備に組み入れることによって、お客様の想像を超える新たな価値を提供する 		地域連携プロジェクト件数 設計施工案件のZEB化率（面積比）※1 お客様満足度	15件 74% 建築 82.6% 土木 99.6%	15件 70% 建築 100% 土木 100%	50件 100% 建築 100% 土木 100%
<p>環境に対する課題</p> <p>持続可能な 環境配慮型社会の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動が環境に及ぼす影響と環境から受ける影響を認識した上で、環境関連法令などを遵守しながら、環境関連技術・サービスの開発と普及を進め、事業を通じて持続可能な環境配慮型社会の実現に貢献する 		CO2総排出量・削減率（スコープ1+2） 再生エネルギー 建設廃棄物の最終処分率 ネイチャーポジティブに貢献するプロジェクト件数	305千t-CO2 181GWh※5 2.9% 51件	22年度比 ▲18% 170GWh 3.0% 50件	22年度比 ▲42% 220GWh 3.0%以下 50件以上
<p>社員・取引先に対する課題</p> <p>一人ひとりがいきいきと 活躍できる 社会・職場環境の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社グループの社員や取引先の社員など、当社グループの仕事に携わる全員が、自らのキャリアプランに合わせて最大限に能力を発揮できる環境をつくる 当社グループの仕事に携わる全ての人の人権を尊重する 		エンゲージメントスコア 新卒女性採用比率 サプライヤーのサステナビリティ活動状況確認率 4週8閉所実施率	BBB 55 25% 48% 建築 49.9% 土木 80.0%	BBB 55 27% 100% 建築 100% 土木 100%	A 60 30%以上 グループ100% 建築 100% 土木 100%
<p>ものづくりへの矜持 ～安全・品質・技術～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全・品質・技術は、顧客満足と社会課題解決の原点であることを再認識し、自分たちの能力のさらなる高みを目指して日々努力する 		死亡災害・重大事故件数※2 重大品質関連トラブル件数※2 主要社外表彰件数※3 特許出願件数 デジタル高度利用作業所数（累計）※4	2件 0件 建築 17件 土木 15件 244件 324作業所	0件 0件 建築 12件 土木 6件 840件（3カ年計） 650作業所	0件 0件 — 1,100件（4カ年計） 全作業所
<p>信頼を支える 公正な企業活動 ～コンプライアンス・ガバナンス～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーからの信頼を高めるために、コンプライアンスを徹底するとともに企業価値の最大化と毀損防止に向けたガバナンス体制を持続的に維持する 		重大なコンプライアンス違反件数※2 重大なセキュリティ事故件数※2	0件 0件	0件 0件	0件 0件

2024年3月期までのKPI及び実績については当社Webサイトをご覧ください 「大成建設グループのマテリアリティ」

※1 「持続可能な環境配慮型社会の実現」との共通KPI ※2 会社の事業活動において発生する事件・事故のうち、会社及びグループ会社の経営に重大な損失を生じる可能性のある事件・事故 ※3 建築：BCS賞、日本建築学会作品選奨、日本建築学会作品選集新人賞、日本建築学会作品選集、BELCA賞、電気設備学会賞技術部門、日本照明賞、環境省気候変動アクション環境大臣表彰 土木：土木学会賞（技術賞、技術開発賞、田中賞）、日建連土木賞 ※4 T-BasisX® 及びT-iDigital® Fieldの累計導入作業所数 ※5 年度末の保有電源による通期換算

特集 ものづくりへの矜持

“TAISEI QUALITY”を胸に たゆまぬ改善で、品質管理を極める

「鉄骨アカデミーにおけるモックアップ全景」
グループ会社を含め、社員が“現物を確認”しながら
3日間のカリキュラムで鉄骨工事のポイントを学ぶ

一昨年に発生した品質不良事案及び工程遅延事案の反省を踏まえ、役職員全員が「ものづくりへの矜持」を持ち、「TAISEI QUALITY ～品質は私たちのプライド～」を合言葉に、誠実かつ確実な品質管理及び工程管理に努め、お客様の満足と社会課題の解決に向けて取り組んでいます。

品質管理本部長メッセージ

TAISEI QUALITYの矜持を持って、 適正な品質管理を遂行

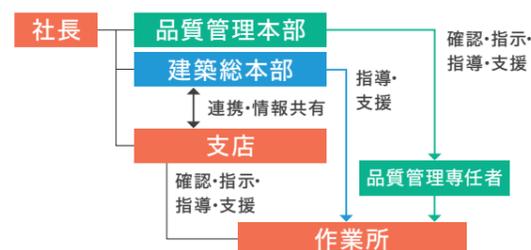
常務執行役員 品質管理本部長 兼 建築品質管理部長 河合 邦彦



品質管理本部は、2023年に発生した品質不良事案を踏まえ、2023年5月に建築事業に関する品質管理体制を強化するため、社長直轄の組織として設置されました。同時に支店及び作業所の品質管理状況をモニタリングするため、各支店に品質管理専任者を配置し、品質管理本部と支店品質管理専任者が相互に補完して取り組んでいます。

当社の「建築業務標準」で定められた品質管理プ

[建築事業の品質管理体制 (2023年5月～)]



ロセスに合致しない施工は、適宜修正して改善しなければ重大なトラブルの芽となります。当本部は社長直轄の独立性に基づき、コスト、工期、要員配置など、施工管理上品質に影響すると考えられる要素をあえてスコープから取り除き、品質管理に特化した第三者的な活動を行っています。

この信条のもと、作業所に即した施工計画書の策定、それに基づいた施工及び品質検査の実施、トレーサビリティを備えた各種記録の保存など、一連の品質管理プロセスの実施状況を、本社品質パトロールと支店品質管理専任者巡回パトロールの両輪によりモニタリングを行い、日々の施工管理が品質管理プロセスに合致するよう努めています。

“TAISEI QUALITY～品質は私たちのプライド～”の矜持を持って、重大品質関連トラブルゼロを継続し、事業基盤を担う品質を守ってまいります。

【TAISEI VISION 2030】達成のための取り組み

「適正な品質管理を徹底し、品質起因の不具合の撲滅と顧客満足度の向上を目指す」を基本方針に掲げており、土木工事では土木本部・支店・作業所が、建築工事では建築本部、品質管理本部、支店、支店品質管理専任者、作業所が連携し、品質管理プロセスの遵守及びモニタリング体制を確立しています。その上で、万一品質トラブルが発生した場合は、全社的な支援を

行う仕組みを整えています。また品質管理活動の実効性を高めるため、クラウドサービスにより、品質パトロールの実施状況、お客様満足度調査結果、作業所で発生した品質に関するトラブルなどの、さまざまな情報をデジタル化すると同時に可視化を図り、品質管理業務の高度化を推進しています。

取り組み	主な実施事項
品質管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 社長直轄の品質管理本部の設置 (2023年5月) 各支店に専従の品質管理専任者を配置 (2023年5月)
技術教育のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> 若年社員を対象とした品質管理プロセスに関する再教育の実施 鉄骨工事について学ぶ「鉄骨アカデミー」の開設 (2024年度 20回) 生成AIを活用した「建築施工技術探索システム」試行による、技術相談サポートの実施 各支店に「共有[※]推進室」を設置 (2025年7月)し、本社「基盤共有[※]部」との連携を強化
事業量に見合った適切な要員配置の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 適正な業務量を勘案した工事受注 新卒・キャリア採用の増加による要員の確保 適切な要員配置のためのタレントマネジメントシステムを導入 IT 関連技術活用による生産性向上
工程に影響する諸条件を考慮した適正工期の確保	<ul style="list-style-type: none"> 入手検討時の各種会議体における適正工期の確認の徹底 本社・支店による工程管理状況の確認・フォローの強化
作業所・支店・本社間のコミュニケーション活性化による情報共有の強化	<ul style="list-style-type: none"> 本支店幹部と作業所員とのグループミーティングの実施 全社における「バッドニュースファースト」の推進

※共有: OJTにより、支店や他部門、作業所とともに動きながら、育成すること



経験を活かして 品質不具合の芽を 摘み取る

東京支店建築部
品質管理専任者 永沼 功



最も規模の大きい支店である東京支店の建築作業所における品質トラブルの抑止を主眼とし、これまでの作業所及び支店技術担当としての経験と教訓をもとに、品質プロセス管理の最前線である現場でさまざまな要因により発生する品質不具合の芽を摘み取り、支店関係者に対策の水平展開を図っています。品質管理本部との連携・情報共有を徹底し、“品質管理のプロ”としての誇りを胸に、品質管理のあるべき姿かたちを追求してまいります。



品質管理プロセスを 徹底し、お客様からの 信頼向上を図る

札幌支店建築部
品質管理専任者 赤川 英樹



2023年に発生した(仮称)札幌北1西5計画の鉄骨建方などの精度不良を受け、品質管理専任者に任命されました。同工事の再構築においては、作業所・品質管理本部と逐次情報を共有し、今年2月に無事鉄骨工事が上棟しました。この事案を受け、特に鉄骨工事を行う作業所については、品質管理本部と情報を共有し、品質管理プロセスを徹底しています。支店品質管理専任者としての責任を重く受け止め、お客様からの信頼を高めていけるよう、第三者の視点で職務を遂行してまいります。

イントロダクション

社長メッセージ

自由関連

価値創造

伝統進化

ステークホルダーとの対話

持続的な企業価値向上と安定的成長のためには、ステークホルダーの皆様との建設的な対話が欠かせません。皆様からの貴重なご意見を活かして経営の高度化を図り、期待と想像を超える価値を提供しながら、人も自然もいきいきとする未来を共創していきます。

大成建設グループを支えてくださる
ステークホルダーの皆様

社員・家族



お客様

協力会社・
取引先

事業に関わる全ての人の“人生を尊重する”

地域社会・将来世代・
NPO・NGO・
地球環境

株主・投資家

当社グループは、ESGやSDGsの考え方を踏まえ、多くのステークホルダーに支えられていることを十分に認識した上で、自らが担う社会的な責任を果たし、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に努めることを、ステークホルダーに対する基本的な考え方としています。

	社員・家族	お客様	協力会社・取引先	地域社会・将来世代・ NPO・NGO・ 地球環境	株主・投資家												
行動指針	<ul style="list-style-type: none"> ▶多様性を尊重し、全役職員の能力が活かせる風通しの良い企業風土をつくります。 ▶継続的な人財確保と社員のエンゲージメント向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ノウハウの結集と技術革新・創意工夫で、お客様に最適な建設生産物・サービスを提供します。 ▶期待と想像を超える提案をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶相互の役割と責任を明確にし、公正で信頼し合える関係を築き上げていきます。 ▶サプライチェーン全体で共存共栄・付加価値向上に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶良き企業市民として社会との対話と協調を図るとともに、社会の発展に貢献します。 ▶持続可能な環境配慮型社会を実現します。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶株主の権利を尊重し、実質的な平等性を確保し、権利行使に係る環境を整備します。 ▶株主・投資家の皆様との対話を充実させ、正確な情報提供に努めます。 												
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ▶企業風土改革 ▶人事制度改革 ▶エンゲージメントサーベイ <p>● P.17 企業風土改革 ● P.21 人事制度改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶お客様の課題に対するソリューションの提供 ▶技術関連見学会開催 ▶くらしと街のコンシェルジュ^{※1} <p>● P.33 バリューチェーン ● P.93 地域連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶倉友会、安全衛生環境協力会^{※2}との対話 ▶サステナブル調達アンケート及び取引先訪問 ▶外国人技能実習生との対話 <p>● P.87 安全 ● P.91 取引先との対話の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶女子生徒等の理工系進路選択支援 ▶環境負荷低減活動TSA^{※3}の継続 ▶社会・文化貢献活動 <p>● P.73 人財 ● P.95 環境・エネルギー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶機関投資家・アナリスト向け決算説明会 ▶個別ミーティングの実施 <p>● P.112 株主・投資家との対話</p>												
成果・実績	<ul style="list-style-type: none"> ▶社員と経営陣との直接対話の実施(450回 2,615名) ▶エンゲージメントスコアの向上 <table border="1"> <tr><td>2023年12月</td><td>50.2</td></tr> <tr><td>2024年 6月</td><td>53.2</td></tr> <tr><td>2024年12月</td><td>55.0</td></tr> <tr><td>2025年 6月</td><td>57.4</td></tr> </table>  <p>社員と経営陣との直接対話</p>	2023年12月	50.2	2024年 6月	53.2	2024年12月	55.0	2025年 6月	57.4	<ul style="list-style-type: none"> ▶お客様満足度調査結果 <table border="1"> <tr><td>2024年度</td><td>建築部門82.6%</td></tr> <tr><td></td><td>土木部門99.6%</td></tr> </table> ▶技術センター見学会開催(333回 3,196名) ▶グリーン・リニューアルZEB見学会開催(130回)  <p>グループ各社の相談窓口を統合しワンストップサービスを提供する「くらしと街のコンシェルジュ」</p>	2024年度	建築部門82.6%		土木部門99.6%	<ul style="list-style-type: none"> ▶倉友会中央協議会での意見交換(9月) ▶全国安全徹底大会・安全推進大会開催(2月・7月) ▶サステナブル調達アンケートに基づく取引先訪問43社  <p>外国人技能実習生との対話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶「夏のリコチャレ2024」イベント開催(計5回 41名) ▶NPO・NGOとの対話 ▶公益信託 大成建設自然・歴史環境基金による環境・歴史保全活動への助成(2024年度 24件)  <p>建設副産物巡回回収システムが多くの社外表彰を受賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶アナリスト・機関投資家との個別ミーティングの開催(2024年度 291回) ▶経営陣によるスモールミーティングの開催(6月・11月)  <p>国内投資家の皆様とスモールミーティングを開催</p>
2023年12月	50.2																
2024年 6月	53.2																
2024年12月	55.0																
2025年 6月	57.4																
2024年度	建築部門82.6%																
	土木部門99.6%																

※1 大成建設グループで展開する土地、建物、住まい等の多種多様な総合相談窓口
 ※2 倉友会は、当社と会員各社との連携強化などを目的とする当社と基幹協力会社の会。安全衛生環境協力会は、当社と協力して労働災害防止活動、環境事故防止活動、環境保全活動を行うことを目的とする協力会社の会
 ※3 TAISEI Sustainable Action* グループ全社員が参加する環境負荷低減活動